

令和 2 年度 園の自己評価

	評価 (1~5)	今年度の状況	
教育・保育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする	5	乳児は担当制をとることで、愛着関係を築くことができ、幼児は子どもの主体性を大切に日々努力していた。
	主体的な活動を促す環境の工夫をする	4	会議などで、どうしたら良いかなど疑問点をあげ、話し合い改善策を見つけていった。
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う	4	子どもの姿や意見を尊重し、自分で遊びたい物を選択しながら、のびのび遊ぶことができていた。
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う	4	職員同士共通理解を図り、園全体でみていくという意識ができてきている。
	活動によって幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている3つの資質・能力が育まれている	3	資質、能力に関して話し合う機会が少なく、理解が低かったように感じるので、共通理解に努める。
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている	4	今年度も、育ってほしい10の姿を念頭に置いて保育に取り入れようと意識することができた。
	小学校との連絡会に参加し、小学校教育と円滑な接続ができるように情報交換をしている	4	コロナ禍で直接学校に行き交流をもつことはできなかったが、情報交換はできた。
健康支援	学校保健計画に沿った保健活動を行う	4	新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言期間があり、クラス単位での保健指導ができず、個別に声掛け等を行った。
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	5	各クラス担任による検温、視診を行い、体調不良が見られる時は看護師による対応を行い、保護者への連絡など対応した。
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている	5	園長・主任・担任・看護師で情報共有し、状態に応じて保護者へお迎えの連絡、園児の隔離、病院受診をした。
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している	5	進級時、保護者に保険調査票の再チェックをして頂く。感染症罹患後の登園時に登園届や治療証明書提出を頂く。
	保健だよりにて情報発信をしている	5	新型コロナウイルス感染症の流行もあり、手洗い、換気、人混みを避ける、規則正しい生活をするを心掛けるよう情報発信した。
	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている	5	ほけんだより、ホワイトボードの掲示で園内の状況を伝え、園内の入室制限などお知らせし、密集しないように心掛けた。
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている	5	発熱、下痢、嘔吐などの症状がある園児は、保護者のお迎えまで事務室で隔離し、様子観察した。
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている	5	0, 1, 2歳児は睡眠チェック表にて観察、記録を行い、午睡中の園児周囲や室内環境を整えた。
	AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている	4	心肺蘇生法はエビペンの使い方の園内研修を行ったが、日程の都合上全員できず、クラス単位で行うなど工夫が必要である。
	食育	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている	4
安全、安心な給食やおやつを提供している		5	衛生管理など徹底して行い、安全、安心な給食、おやつ作りを行った。
旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている		4	旬の食材は献立作成時より意識して取り入れ、季節感を感じられるよう努めた。
栄養だよりにて情報発信をしている		4	給食だよりを発行し、様々な観点から、食に対する情報を発信するよう努めた。
食物アレルギー対応を適切にしている		5	アレルギー児に対して、別食器、トレイなどで対応し、個々に除去献立を配布している。また、ホワイトボードなどでも、毎日除去対象を記入し、注意喚起を行っている。
環境・衛生	離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している	5	個々の成長に応じて、段階的に対応している。
	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている	5	新型コロナウイルス感染症予防もあり、常に換気を行う。各保育室に加湿器空気清浄機を設置し、環境整備に努めた。
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している	5	嘔吐物処理はマニュアルに沿って対応し、オムツ交換時の交換台の消毒や、手洗いを徹底している。
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている	5	保育室、トイレなど担当を決め、毎日清掃を行えた。感染症予防のため、玩具消毒も丁寧に行った。
災害への備え	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている	5	調乳、食事介助前には手洗いをし、テーブル拭きなどの清潔に毎日配慮ができています。
	学校安全計画・危険等発生時対応要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている	5	係りを決めて、定期的に点検を行っている。
	危険等発生時対応要領に基づき、緊急時の対応の具体的な内容、手順、職員役割分担について確認をしている	4	訓練の際等に流れや役割の確認をし、改善点を上げ見直している。
	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している	5	訓練の内容を毎回考慮し、様々な想定で行い、職員間で周知させている。
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている	5	引き渡しカードを作成し、訓練に年1回保護者の方にも参加して頂いている。
事故防止	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている	5	防災備蓄を増やし、災害にそなえている。
	園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている	5	保育者間で連絡、確認し合って共有している。
	遊具や玩具の安全点検を定期的に行っている	4	日々の生活の中で確認し、危険な物、破損している物がないか確認している。遊具に異常のある時は職員間で周知させている。
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている	4	園外や散歩ルートにおいて、危険な場所がないか、職員間で情報交換し、全職員で周知している。
子 支 援 て の	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している	3	ヒヤリ・ハットの提出が少なく、会議も1回しか行えなかったため、対策を検討している。
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している	4	不審者訓練、会議を行い、全職員が流れを周知していく。
	睡眠、プール活動、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に合わせた適切な対応を行っている	5	マニュアルに基づき、適切な対応が取れるように看護師を中心として会議で話し合いを行っている。
	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している	2	コロナ禍で保育体験が行えなかったため、おたよりや面談等で園での様子を伝えた。
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する	5	必要に応じて担任や園長と面談を行い、保護者の心情に寄り添った。
資 質 向 上 の	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う	5	巡回支援や進学相談などを通し、成長発達に関して、家庭支援を行った。
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌)	5	コロナ禍ではあったが、園庭開放を行い、育児相談を受けるなど交流ができた。
	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることのできるようにする	5	コロナ禍でオンライン研修が増え、非正規職員等も受けやすくなった。全職員参加の研修も増えた。
キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める	4	園外での研修が少なく、参加できない人もいたが、参加できた人は大きな学びに繋がっている。	